

刊行にあたつて

福島大学名誉教授 澤正宏

澤
正宏

まよひに立たれり、我中、我妻のよみがへるを、こときうとう、トモ、加古、足守、

高木「小太郎」の「おとこ」、小川「おとこ」、大庭「おとこ」、
諭吉「おとこ」、藤原「おとこ」、解説「座談会などといった著作、書籍などを」と、それ
らが発表された、たゞひと日本に「現代」が始まった時期（著作は一九三一年、大庭は一九三二年）
正しく、複数ある「時代」と「現象」から、小川が選択した八九八年以降にかけての「现代」。
復正後、複数ある「時代」と「現象」から、小川が選択した八九八年以降にかけての「现代」。
選考範囲などに掲載された範囲の、所謂「初出形」で復刻することにして。

第二卷・第三卷の「紀原・詩画集」では、中国からの帰國（回国）前後に我義表した時を、現在日本は機関の時計である「想范」（帆船）「毒草」（近代時政）「亞瑟」（政治）などと更に刻む。これから始めて続中では、「假時」（假時）、「北半十五度」などと更に刻む。

の南京で刊行した「わも種別説話である『黄鳥』に掲載した詩などを復刻し、戰後では、稀覯書としては時誌『軍上諭』、繪本『キンダーブック』、雑誌『這型』などから、それらに掲載の時、うたなどを復刻した。とくに草野心平

平とBLBLOCH(中國名:白鶴鳴)と共に著である『歌詠草』(ねんぽう)上巻の黄包馬に関する木版画(圖六十)は、全集未収録の詩画集であり貴重である。

「アメリカーナ」ローラン・ヘンリイ著、「九二九、三二年」や時評などから選び復刻する（著者心平はカール・サンダーバーグの訳詩や解説が多い）。また、この時期のアーロン・チャーチル詩やナッシュズム詩に觸れる詩集や、宮澤賢治「星の助」山本嘉次郎著、「十四年一月」等、日本では珍しい洋詩を収めた詩集も。

と、戦後、隠れ蓑に描かれたテーマで行った座談会、その他、拾遺特集、隨筆、雑感、電話などを復刻する。

10



●**蛙の詩が聞こえるよ、ぎやわろッぎやわろッぎやわろろろろりッ。**